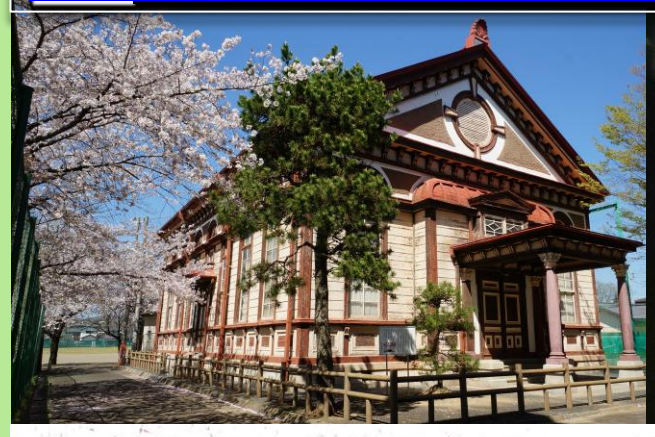
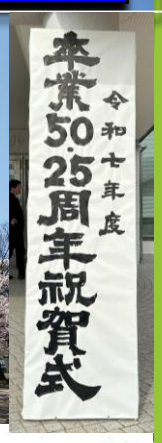
祝　太田一高　卒業50周年・25周年祝賀式





2025年(令和7年)4月28日　月曜日　茨城新聞

2025.4.19

大先輩 在校生にエール

太田一高 卒業50・25周年祝賀会

県立太田一高（常陸太田市栄町）の「卒業50周年・25周年祝賀式」が19日、同市中城町の市民交流センターで開かれた。各周年生の講演などを通して同じ学びやで過ごした先輩と後輩が絆を確かめ、先輩たちが築いた業績に後輩が触れる機会。周年生たちは旧交を温めながら在校生らと共に校歌や応援歌を歌い、改めて絆を強めた。

在校生らに迎えられて入場する卒業50周年生＝常陸太田市中城町

同高を卒業して50周年と25周年を迎える卒業生を招く、1957年から続く全国的にも珍しい伝統行事。母校と郷土を愛する心の育成や進路選択への意識の向上などが狙い。同高付属中1年生から高校2年生約520人が出席し、周年生計約200人を迎えた。

同窓会の秋山和衛（かずえい）会長は周年生の在校時期の出来事を紹介し、「さまざまな困難に果敢に挑戦し努力し道を切り開き乗り越えてきた」と述べ、在校生に「同窓会の伝統を未来につないでいってほしい」と願った。谷津勉校長は「よりよい社会づくりに参画できる人材になるためには学校、家庭、地域、同窓会などとの連携が重要」と協力を求めた。同窓会顧問の梶山弘志衆院議員が祝辞を述べた。

50周年生代表の草地哲夫さんは「世の中の変化にスマートに対応し、地域コミュニティーやボランティア活動に積極的に参加するなど社会に貢献していきたい」、25周年生代表の福田靖幸さんが「グローバルな問題解決には多大な知見や方法を融合させる必要がある」などとあいさつした。

生徒会の小峰遥斗会長は「卒業生に支えられていることに感謝しながらチームワークと団結力を大切にして太田一高を進化させていく」と感謝と誓いの言葉を述べた。

周年生の講演は東洋大文学部教授の赤須薫さんが「何でもやってみよう～若い時の経験はすべて財産です」、教員の蓮見宏明さんが「夢に向かう力を育てる為には」と題して行い、「自分の好きなものをしっかり追求してほしい」「自分らしさを生かして夢をかなえて」などと、それぞれ在校生にエールを送った。最後に全員で校歌などを歌って締めくくった。

（飯田勉）

茨城新聞2025.4.28　転載許可済

卒業50周年・25周年祝賀式の記事が掲載されました